

## ～異常気象に備えた丈夫な稲づくり～ 初期生育確保にむけた適正田植えと水管理の実践

### ここがポイント！！

- 1 田植えは、品種に応じた栽植密度とし、1株当たり3～4本で植える
- 2 活着までは水深3～4cmを保ち、活着後は2～3cmのやや浅水管理とする
- 3 除草剤は適期を逃さず散布し、散布後は湛水状態を保つ

## 1 田植え作業（早植え注意！）

### （1）田植え日

- ア 発根・活着を良好にするため、好天日に田植えをする。
- イ 登熟期間の高温による品質低下を避けるため、コシヒカリの田植えは5月10日以降を基本とする。突発的な異常高温等による品質低下のリスクを分散する観点から、移植時期の分散も検討する。

### （2）栽植密度、植え付け本数

- ア 籾数を適正に制御し、品質低下を防ぐため、コシヒカリの栽植密度は平坦地で50株/坪、山間地で50～60株/坪を基準とする。
- イ その他の品種の栽植密度は50～60株/坪を基準とし、品種の特性、移植時期や土壌の肥沃度により調節する。
- ウ 過繁茂、細莖化による倒伏や品質低下を避けるため、植え込み本数は1株当たり3～4本とする。
- エ 下位分けつの発生を促進するため、植え付け深さは2～3cmとする。

## 2 田植えから中干しまでの水管理

- （1）田植え後から活着するまで（田植え後7～10日間位）は水深3～4cmの保温的管理とする。低温や強風の場合は、植え傷みを避けるため4～5cm程度のやや深水とする。
- （2）下位分けつの発生を促すため、活着後は2～3cmのやや浅水とする。
- （3）水を更新する場合は、早朝にかん水し日中は止水とする。
- （4）ワキや藻・表層剥離が大量発生する前に、早めに水の入替えや夜間落水をする。

### 3 除草剤の効果を最大限に発揮

- (1) 丁寧な畦塗りや代かきで漏水を防止し、田面を均平にしておく。
- (2) 初期剤は、河川などへの流出を防止するため、田植え時または田植え後に散布する。
- (3) 雑草の葉齢をよく確認し、散布適期の範囲で早めの散布を心がける。
- (4) 散布後は、剤に合わせた水深を確保する（粒剤は3～5 cm、フロアブル剤は5 cm程度、ジャンボ剤・豆つぶ剤は5～6 cm程度）。処理後7日間は止水とし、4～5日間は湛水状態を保つ。
- (5) 農薬使用は製品ラベルに記載されている使用基準や注意事項、使用方法をよく読み、内容を遵守する。

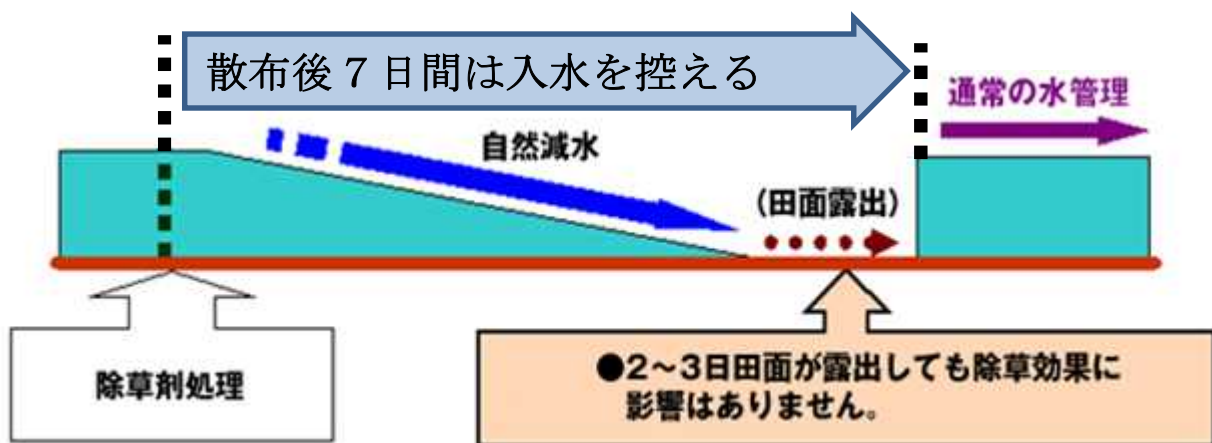


図1 除草剤散布の水管理のイメージ

### 4 新之助栽培のポイント

- (1) 出穂25日後までの用水確保や土壌の肥沃度等を考慮し、作付ほ場を選定する。
- (2) 田植えは稚苗植えて5月中旬頃をめやすとし、経営規模や標高、水利条件等を考慮した上で適切に設定する。
- (3) 適正な生育量に制御するため、栽植密度は50株/坪を基準とする。
- (4) 葉いもち防除（箱施用または水面施用）は、必ず実施する。

メールマガジン登録募集中！

気象や生育状況に基づいた水稻栽培のポイントをお届けします。  
迅速に技術情報を受け取れるメールマガジンに登録しましょう。

[ngt112130@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt112130@pref.niigata.lg.jp)

こちらからもメールできます↑

※件名に「水稻情報メルマガ登録希望」、本文に「お名前」「住所」「電話番号」をご記入ください。

